議 事 録

会議名称	宇部市営旅客自動車運送事業審議会
開催日時	令和８年７月２４日　１４：００～１５：３０
開催場所	宇部市役所　市民交流棟　２階　会議室Ａ
出　席　者	委員（１１名）　出席　７名　　欠席　４名 オブザーバー　　３名

■次第

１　任命書交付

２　市長あいさつ

３　会長及び副会長の選任

（会長）　　榊原　弘之

（副会長）　　林　里織

４　諮問

交通事業の持続可能な運営を図るための経営のあり方について意見を求める

５　審議事項

（１）　持続可能な事業運営に向けた経営の基本方針について

（２）　適正な受益者負担のあり方について

６　委員の紹介

別添委員名簿参照

７　議事

８　連絡事項等

■議事

議　　題	（１）審議会の概要について （２）現行の経営戦略の主な取組に関する振り返り （３）宇部市交通局を取り巻く経営環境について （４）第２回審議会に向けた論点整理
発言内容	（主な質疑） Q1 車両については、空席が目立つ便もあり、小型バスの活用や車両規模の考え方について確認したい。 A1 交通局は 62 台の路線バスを保有しており、運転士の勤務編成上、乗車人員が多い時間帯・ルートを運行することもあれば、乗車人員が少ない時間帯・ルートを運行することもある。 結果的に、全ての勤務に対応するため中型バスを選択することとなり、現在の保有車両台数を維持するためには、毎年 2～3 台ペースで更新しなければならない。なお、乗車定員が 11 人を超える場合は大型 2 種免許が必要となる。 Q2 はな金バスについて、利用状況について教えてほしい。また、運行時刻の設定がもう少し遅い時間であれば利用しやすいのではないか。 A2 はな金バスは 1 便 10 人に満たないことが多い。ただし、バスを知り、移動手段として意識してもらうきっかけとして実施している。運行時刻は一次会が終了する時刻や運転士の労働条件を踏まえ、21 時 30 分に統一している。 （意見交換） 【会長】 宇部市公共交通計画は交通局以外の交通事業者も含む計画であるが、本審議会では宇部市交通局の経営のあり方を中心に議論する。 <u>「経営戦略の振り返りについて」</u> 【委員】 現状認識について、各施策がどの程度効果を上げたのか、数値や因果関係に基づいて示す必要がある。また、利用率向上には未利用者の声を把握することが重要であり、過去のアンケートや未利用者への調査を活用すべきである。 【事務局】 これまで IC カード、バスロケーションシステム及びバスナビゲーションシステムの導入、乗り方教室の実施、運転士確保策の実施、貸切バス事業の強化などに取り組んできたが、成果指標が明確でない

発言内容	点で課題がある。IC カードの普及率は上がっているものの、導入と利用者増加の因果関係を確認することは難しい。今後は、利用促進につながる指標設定について議論いただきたい。 また、市民アンケートでは公共交通の満足度が低く、利用者・未利用者それぞれが何に不満を感じているか分析する必要がある。令和 8 年度は学生を対象に利用しない理由などを調査する予定である。 「利用促進について」 【委員】 利便性が向上していても、普段バスに乗らない人には情報が届いていない。時刻や乗り換えが分からないことが利用の妨げになっているため、乗らない人にも届く広報が必要である。 【事務局】 ウェブサイトは関心がない人には見られにくいため、「広報うべ」など市の広報媒体も活用して発信していきたい。 【委員】 宇部新川駅は交通結節点として重要であり、駅利用者が市営バスへどのように乗り換えているか調査することで改善策が見えてくると感じる。 【委員】 車利用者にとってはバスが相対的に不便に感じられ、北部では便数や待ち時間への不満もある。 【委員】 バスは JR と比較して路線や曜日による時刻の違いが分かりにくく、乗るきっかけづくりが難しい。 【委員】 空港利用者や県外からの来訪者、移住者にも分かりやすい案内が必要である。 【委員】 子どもの頃からバスを移動手段の一つとして意識づけ、習慣化することも重要である。 【会長】 市営バスの利用者数はコロナ禍で大きく落ち込み、その後回復傾向にあるものの、コロナ前の水準には戻っていない。今後は人口減少により再び減少に転じる可能性もあり、利用促進策を検討する必要がある。 【会長】 交通局では年 1 回乗降調査を実施しているが、特定日の調査であり天候等に左右される。IC カード利用者のデータは利用実態把握に有効であり、IC カード利用率の向上は経営面でも重要である。

発言内容	【委員】 主要駅から商業施設や病院などへの時刻表を分かりやすく示すなど、普段使わない人でも利用しやすい情報提供があれば、バス利用の心理的ハードルを下げられる。 【会長】 乗り換えの分かりにくさは過去のワークショップでも多く指摘されている。宇部市交通局が作成している学校別時刻表のように、施設別の時刻表を作成・公開すれば、利用しやすさの向上につながるのではないか。 「受益者負担について」 【会長】 市営バスの収支については、人件費分も運賃で回収できておらず、市から多額の補助金が投入されている。公共交通は運賃収入だけで維持することが難しい一方、税負担にも限度があるため、適正な受益者負担のあり方を議論する必要がある。 【委員】 乗合収入のうち、利用者が直接負担している金額と、市の補助等により支えられている金額が分かる資料があると、今後の議論の参考になる。また、エリアや距離ごとの利用実態や受益者負担率を把握できれば、より具体的な議論につながる。 「人材確保について」 【会長】 運転士不足や労働規制は全国的な課題であり、夜間や早朝の運行に影響しやすい。タクシーも確保しにくい状況であり、ニーズはあると考えられるため、周知を含めて工夫が必要である。 【事務局】 若い運転士確保のため、令和 7 年度に運転士養成員として 20 歳の運転士を 2 人採用した。この制度は、採用後に給与を受けながら大型 2 種免許を取得できるもので、免許取得のハードルを下げることを目的としている。 【会長】 他事業者でも同様の取組はあるが、運転士確保には待遇面が重要であり、人件費の削減は難しい。経営戦略では、利用促進、受益者負担、情報提供、人材確保を一体的に検討する必要がある。

■次回予定

日時	令和 8 年 9 月 24 日(木)　15：00～
場所	宇部市役所　本庁舎　3 階　防災情報センター
議題	サービス水準の検討